

【報告】トマホーク配備に反対し、京都を「敵基地攻撃」の出撃拠点にさせない

5.31 「Peace Action in 舞鶴」

2,800人が人間の鎖で舞鶴基地を包囲

——平和への意思が港を埋めた一日——

5月31日、京都府舞鶴市で「Peace Action in 舞鶴」が開かれ、海上自衛隊舞鶴基地を囲むヒューマンチェーンと市民文化会館・前島みなと公園での集会に計2,800人が参加しました。参加



者は手をつなぎ、「京都を敵基地攻撃の出撃拠点にさせない」との意思を示し、海自艦艇へのトマホーク配備計画に反対の声を上げました。京都、滋賀、大阪、兵庫をはじめ、沖縄、九州、広島、愛知、静岡、神奈川など全国から人びとが集ま

り、反軍拡の声の広がりを示しました。

42年前の闘いを受け継ぐ

舞鶴には重なる記憶があります。1984年5月27日、核搭載トマホーク配備計画に抗議して2万7,000人が舞鶴港を人間の鎖で包囲しました。あれから42年、再び迫るトマホークの脅威に対し、今回の行動は過去の闘いを現在へつなぐ場となりました。

ヒューマンチェーンと二つの会場での集会

右翼街宣車の妨害が続くなか、午前11時30分にスタンディングアピールが始まり、正午には北吸岸壁から赤レンガパークまで約1,500メートルにわたり、2,800人が二重の人間の鎖をつくりました。「トマ



ホークはいらない」「平和憲法を守れ」「戦争やめろ」と声上がり、基地を包む光景が参加者の決意を示しました。屋内集会には1,400人が参加し、合唱や川口真由美さんの歌で幕を開けました。会場では「ケサラ」の大合唱が響き、熊本、静岡、横須賀、呉、沖縄など各地から基地強化に抗する

報告も続き、舞鶴のたたかいが全国とつながる一日であることが示されました。

屋外集会には700人が参加しました。高橋一郎さんは、トマホーク配備は市民の命を脅かし、この国を加害国に変えると訴えました。三上智恵さんは沖縄の経験から非暴力・非協力の戦争抵抗を呼びかけ、清水早子さんは自衛隊による市民への恫喝をめぐる国賠訴訟への支援を訴えました。舞鶴での訴えは全国の現場へとつながっていきました。



集会宣言—「戦争をするな」の一点で

集会の最後に宣言が採択され、先制攻撃兵器トマホーク配備への反対と、「二度と戦争をしたくない」という願いが確認されました。政治的立場や思想信条の違いを超え、「戦争をするな」の一点でつながる意思が力強く共有されました。

舞鶴での2,800人の結集は、政府の戦争準備に歯止めをかける具体的な行動として大きな意味をもちました。関西から全国へ広がる反軍拡の民意が可視化され、市民の強い意思が示されました。

舞鶴市では基地拡張やトマホーク配備を容認する動きが強く、反対の声を上げるのは容易ではありません。自衛隊員と家族が多く暮らす地域だからこそ、今回の行動は配備反対にとどまらず、地域の命と暮らしを守る意思表示でもありました。現地で運動を続ける人びとにとっても、大きな励ましとなりました。

(リブ・イン・ピース☆9+25 K)

究極のパラドックス：平和を抱きしめた港が、殺戮の拠点になる矛盾
戦争の悲惨さを誰よりも知る「平和の発信地」舞鶴に、先制攻撃の尖兵となるトマホークは相容れません。私たちは、加害者になることを拒否します。

他国の無辜の市民を脅かす出撃拠点

戦争の犠牲者を温かく迎え入れた癒やしの港